

6.9.3 評価

6.9.3.1 工事の実施

1) 環境影響の回避・低減に係る評価

(1) 環境保全措置

① 造成等の施工による一時的な影響

改変区域において確認された重要な種のうち、地上徘徊性で移動能力が小さい爬虫類2種(セマルハコガメ、サキシマアオヘビ)、昆虫類4種(ヤエヤマクビナガハンミョウ、コガタノゲンゴロウ、ヤエヤマミツギリゾウムシ、ナガオオズアリ)、陸産貝類5種(ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ホラアナゴマオカチグサガイ、ノミガイ、ヨワノミギセル)の11種については、改変区域内の生息個体が消失することにより事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあると予測され、生息状況に及ぼす環境影響の程度が極めて小さいとは判断されない。このため、「事業実施区域周辺の重要な個体群の存続」を環境保全上の基本的な考え方とし、環境保全措置を以下のとおり検討した。

・重要な種の移動

改変区域内の生息個体が消失することにより、事業実施区域周辺の個体群の存続に影響があると考えられる11種は、工事着工前に改変区域内の踏査を行い、改変区域外の生息に適した環境への自力移動を促すか、捕獲移動を行う。ただし、洞窟性のホラアナゴマオカチグサガイについては移動は遺伝的な攪乱を生じるおそれがあることから移動は行わず、残存する生息環境であるA及びD洞窟の周辺環境の保全に努めることとする。また、ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ノミガイ、ヨワノミギセルについても土着性が強いことから、連続する林内の直近への移動のみとし、林地間の移動は行わないものとする(例えば改変する二次林から残地の二次林への移動などは行わないが、航空障害灯予定地内の場合は直近へ移動させる)。

また、キシノウエトカゲ、オカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリの4種については、事業実施区域周辺の個体群の存続には影響はないものと考えられるが、国指定天然記念物であることから、工事着工前に改変区域内の踏査を行い、捕獲移動を行う。

以上のことから、移動を行う種は爬虫類3種(セマルハコガメ、キシノウエトカゲ、サキシマアオヘビ)、昆虫類4種(ヤエヤマクビナガハンミョウ、コガタノゲンゴロウ、ヤエヤマミツギリゾウムシ、ナガオオズアリ)、甲殻類3種(オカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ)、陸産貝類4種(ヤエヤマアツブタガイ、ヤエヤマヒラセアツブタガイ、ノミガイ、ヨワノミギセル)の14種である。

移動地は事業実施区域内、ゴルフ場残地内及び事業実施区域近傍の公有地内とする。事業実施区域近傍の公有地内は、可能な限り保安林または森林区域の中であることを想定し、現在その種が生育している植生と可能な限り同一で、現在の生育箇所から距離が近い場所を選定した。移動は造成工事の工事年次を考慮して行うものとする。な